

## 第5章 今後の課題

今回実施した調査の次年度以降の調査地や、今後の課題についてまとめた。

### 5.1 詳細調査の次年度以降の調査対象地について

調査開始から10年間で336箇所（のべ452箇所）について詳細調査を実施してきた。未実施の地域は、北空知、網走南部・津別地域、後志・積丹地域などが残されている。また、平成26年度以降は既設調査区の再調査が開始され、これまで116箇所の再調査を行った。2巡目の調査が未実施である調査地も多く残されており、長期間間隔が空いている箇所が対象箇所として考えられる。

検討会での委員の意見も踏まえて、空白地での実施を優先させつつ、可能な限り再調査地でも実施する方向で、次年度の調査対象箇所を検討した。

優先的に調査を実施すべき箇所は以下の二つとなる。

#### ① 調査未実施の森林管理(支)署

北空知、網走南部（津別地域）、後志（積丹地域）

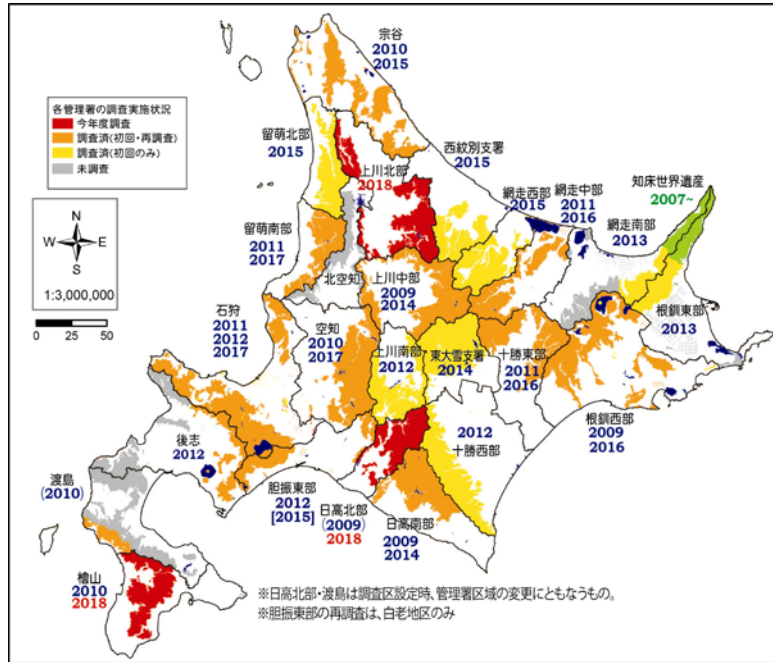
#### ② 5年以上調査間隔がある森林管理署

十勝西部、上川南部、胆振東部（一部再調査を実施）、後志、網走南部、根釧東部

※十勝西部は2016年台風の影響により林道通行不可の林道が多数あり、調査が難しいケースも考えられる。

上記をもとに下記、表-5.1.1 のとおり2019年度に調査を実施すべき森林管理(支)署の優先度（追跡調査）についてとりまとめた。

モニタリングの間隔は当初は「おおむね5年」と予定されてきたが、簡易チェックシートの結果や、周辺で実施されているエゾシカ捕獲事業などと合わせて総合的に判断していく。



森林管理署の境界は調査実施時のものを表記

図-5.1.1 詳細調査の実施状況(数字は実施年)

表-5.1.1.各森林管理(支)署の調査実施状況

森林管理(支)署	SPUE	SPUE	調査回数	調査実施状況(調査箇所数)										
	2011-16	2016		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
上川中部署	3.4	2.7	2	20					15					
日高南部署	6.2	5.4	2	16					15					
根釧西部署	6.3	4.9	2	20							12			
宗谷署	7.3	6.5	2		20					10				
空知署	4.7	3.7	2		20							10		
樺山署	3.4	2.0	2		16								9+1	
網走中部署	3.9	2.5	2			20					10			
十勝東部署	6.0	3.8	2			20					10			
留萌南部署	5.5	4.0	2			20						10		
石狩署	4.9	4.5	2			15	5					10		
十勝西部署	6.0	5.0	1				16							高
上川南部署	3.9	2.9	1				10							高
胆振東部署	6.4	6.1	1				14			3+2				高
後志署	3.4	2.8	1				15							高
網走南部署	3.3	2.3	1					15						中
根釧東部署	8.1	8.1	1					15						中
東大雪支署	4.3	3.4	1						15					中
留萌北部署	7.1	4.7	1							5				
西紋別支署	5.1	3.8	1							5				
網走西部署	4.3	3.1	1							5				
上川北部署	3.7	3.1	1										10	
日高北部署	4.9	4.1	1	4									2+8	
北空知支署	3.3	3.5	未実施											
渡島署	2.1	1.2	一部実施		4									
				60	60	75	60	30	45	30	32	30	30	

※○+○は、2回目調査地+初回調査地

## 5.2 詳細調査の調査スケジュールの検討

詳細調査地は10年間で336箇所を設置された。このうち、これまでに2巡目を行った森林管理署の調査区とこれから2巡目を迎える管理署の調査区は、現在計248箇所ある（残り88箇所は2巡目を終えた森林管理署で調査が未実施で、今後実施する可能性が低い調査地）。

ここ数年は毎年の調査実施区数は30箇所程度で推移しており、すでに5年間隔以上空いて調査することがほとんどになっている。今後も空白地域の調査を行う場合には、さらに調査間隔が空いて調査することが予想される。調査期間が長期間になった場合には、林分の変化の影響がシカによるものかの判断が難しくなるため、できるだけ期間を短くして調査することが望ましい。

このため、今後は、対策を行っている森林管理署や、シカの影響拡大が懸念される地域など注視する地域を設定して、重点的に調査を行っていくなど、今後の長期的なモニタリングの進め方の再考が必要である。

## 5.3 簡易調査データと捕獲対策等データとの連携

簡易調査の結果を、エゾシカ対策により効果的に活用していくために、捕獲に関する対策や捕獲数といったデータとの連携性を高めることが望ましい。

具体的には、各森林管理署で実施している林道除雪状況や捕獲状況の整理、北海道によって整理されている狩猟捕獲数や許可捕獲数との対応を、担当区レベルで整理し、捕獲による効果や、捕獲の必要性などを提言を行えるようにする。